

交通アクセス

周辺地図

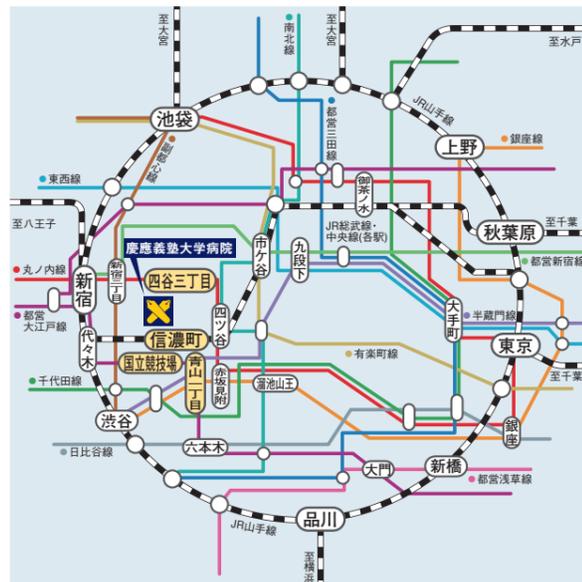


■公共交通機関で来院される方

【JR・地下鉄】

- JR中央・総武線「信濃町」駅下車
徒歩約1分
- 都営大江戸線「国立競技場」駅下車（A1番出口）
徒歩約5分
- 東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目」駅下車（1番出口）
徒歩約15分
- 東京メトロ半蔵門線・銀座線「青山一丁目」駅下車（0番出口）
徒歩約15分

路線図



【バス】

- 新宿駅西口～品川駅高輪口(品97)「信濃町駅前(慶應病院前)」下車
- 早大正門～渋谷駅東口(早81)「四谷第六小学校入口」下車

■お車で来院される方

- 駐車スペース(有料)は台数に限りがありますので、満車の場合は入場できません。診察・検査等の予約時間にあわせ、電車・地下鉄・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

※雨天時や休診日前後は特に混雑いたしますので、ご注意ください。

慶應義塾大学病院Webサイト「アクセス(交通のご案内)」

<https://www.hosp.keio.ac.jp/kotsu/>



お問い合わせ

■外来予約窓口

(初診のご予約／予約の確認・変更／検査予約の変更)

●初診のご予約

03-3353-1257 (午前8時30分～午後4時30分)

03-5363-3020 (がん専門初診外来専用)

※ご予約には紹介状が必要です。
※紹介状をお持ちでない場合、初診に係る特別料金(選定療養)として、9,900円(税込)をご負担いただけます。詳細は外来予約窓口でご確認ください。

●予約の確認・変更(歯科・口腔外科/検査を除く)

03-3353-1205 (午前8時30分～午後4時30分)

●歯科・口腔外科の予約変更

03-3353-1211

歯科・口腔外科受付(午前8時30分～午後4時00分)

●検査予約の変更(CT、MRI、内視鏡、超音波、心電図、PET、SPECT等)

03-3353-1205 (午前8時30分～午後4時30分)

03-5363-3654 (午後4時30分～午後5時00分)

■会計窓口(診療費のお支払について)

03-5363-3656 (午前8時30分～午後5時00分)

■文書受付窓口(診断書・証明書作成・公費関連書類について)

03-5363-3531 (午前8時30分～午後5時00分)

■医療連携推進部 病床管理担当(入院・退院について)

03-5363-3855 (午前8時30分～午後5時00分)

■医療連携推進部 医療連携担当

03-3353-1889 (午前8時30分～午後4時30分)

■セカンドオピニオン外来事務局

03-3353-1139 (午前8時30分～午後4時30分)

■がん相談支援センター

03-5363-3285 (平日午前9時00分～午後5時00分)

■総合相談窓口

03-5363-3638 (午前8時40分～午後4時30分)

■予防医療センター

03-6910-3533 (午前8時30分～午後5時00分)

■その他のお問い合わせ(代表)

03-3353-1211

受付時間・休診日

■外来受付時間

午前8時40分～午前11時00分

■休診日

日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日、休日 /

年末年始(12月30日～1月4日)

※休診日でも外来診療日とする場合があります。詳細は病院Webサイトをご確認ください。

 慶應義塾大学病院

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地 03-3353-1211(代表)

慶應義塾大学病院Webサイト

<https://www.hosp.keio.ac.jp/>



2024.12



慶應義塾大学病院

総合案内 2024





慶應義塾大学病院の理念

患者さんに優しく患者さんに信頼される

患者さん中心の医療を行います

先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します

豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します

人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します

慶應義塾大学病院の理念 実施方針

- | | |
|--------------|------------------------------------|
| 1. 患者さんの立場で | 私たちは、患者さんの立場になって考え、ともに疾病の克服に努めます。 |
| 2. 質の高い安全な医療 | 私たちは、質の高い安全な医療を持続できるよう努めます。 |
| 3. 不断の自己点検 | 私たちは、不断の自己点検と評価によって、病院機能の改善に努めます。 |
| 4. 独立自尊の医療人 | 私たちは、独立した一個人として責任をもって社会的使命を果たします。 |
| 5. 総合的なチーム医療 | 私たちは、各職種が一体となった総合的なチーム医療を展開します。 |
| 6. 新しい医療 | 私たちは、基礎と臨床が一体となって、積極的に新しい医療に挑戦します。 |
| 7. 倫理と人権 | 私たちは、高い倫理性を持って、人権を尊重した医療を推進します。 |

患者さんの権利

人として尊重されプライバシーが保護された医療を受けることができます。

安全・安心で良質な医療を受けることができます。

ご自身の医療に関して適切な説明を受けることができます。

ご自身の意思で医療を選択することができます。

ご自身の医療に関して意見や希望を述べるすることができます。

ご自身の医療に関してセカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんの義務

医療に関して正確に情報提供してください。

医療に関する説明が理解できない場合はその旨を伝えてください。

法令や院内の規則を遵守し暴力・暴言等の患者さんや職員への迷惑行為を厳に慎んでください。

受けた医療に対して当院が請求する医療費は遅滞なくお支払いください。

ご挨拶

— 次の100年に向けて慶應義塾大学病院は歩みを進めています —

慶應義塾大学病院は2020年に開院100年を迎え、次の100年に向かって歩みを進めています。

当院は2018年に新病院棟1号館が本格稼働し、2号館・3号館の改修を進め、2022年5月にはエントランス棟と外構も整備され、グランドオープンいたしました。このような新しい環境下で患者の皆さんに医療を提供できますことは、私ども教職員にとりまして大きな喜びです。初代病院長である北里柴三郎博士は医学部開校・大学病院開院式において「各科の分立を防ぎ、基礎医学と臨床医学の連携を緊密にし、学内は融合して一家族の如く、全員拳(こぞ)って医学の研鑽に努める」ことを目標に掲げました。当院ではこの精神を100年以上にわたり脈々と受け継いできました。外来、病棟においては31の診療科が互いの垣根を無くし、すべての職種が協力して患者の皆さんにチーム医療を提供しています。治療が極めて困難ながん、免疫、神経、運動器、感覚器、遺伝などの難治性疾患に対しては複数の診療科の専門家チームからなるクラスター部門が高度な医療を行っています。

2023年度は、外来では年間延べ86万人(一日平均3,188人)、入院で30万人(一日平均836人)の患者さんを治療させていただきました。手術センターでは、高難度の手術に対応可能な医療機器を備えた25室で16,742件(うち全身麻酔8,782件)の手術を行っており、その中にはがんに対するロボット手術、臓器移植、経カテーテル大動脈弁留置術をはじめとする血管内治療などの先進的な手術も含まれます。救急センター、手術センターおよび集中治療センター(ICU、HCU)は専用エレベーターで直結され、密に連携した高度急性期医療を提供しています。新生児、小児ICUも整備し、無痛分娩も導入するなど周産期・小児医療にも力を入れています。さらに多くの関連病院や医療連携協力医療機関と連携をしながら地域医療に貢献するとともに、東京都災害拠点病院として巨大地震やテロなどの災害時に地域の医療救護活動の拠点となるべく常に備えをしております。

当院は特定機能病院として高度で安全な医療を提供するとともに、豊かな人間性と深い知性を有する医・看・薬の医療人の育成を行っています。また、私学では最初となる臨床研究中核病院に認定され、基礎医学と臨床医学部門が密に連携しながら日本発の革新的医薬品・医療機器の開発に向けて質の高い臨床研究を推進しています。さらに、がんゲノム医療中核拠点病院、地域がん診療連携拠点病院として遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療などのがん診療を提供しています。2018年には内閣府戦略的イノベーション創造プログラムのAIホスピタルモデル病院に採用されました。さまざまな企業と連携し、AI、ロボット、センサー技術を用いて患者さんに先進的な医療サービスを提供するとともに、業務効率化による医療従事者の負担軽減に取り組んでいます。

2023年11月からは麻布台ヒルズに予防医療センターを拡張移転し、新時代の予防医療を提供し、必要な場合はスムーズに慶應義塾大学病院で治療を行い、丁寧にフォローアップを行う一気通貫の診療体制を構築いたしました。また、3号館予防医療センター跡地では患者の方々の多様なニーズに答えるべく、メデイカルフィットネス、医療機器やロボットを用いた運動麻痺に対するリハビリテーション、赤ちゃんの頭のかたち外来、エビデンスに基づいた美容医療などの自由診療を開始いたしました。

当院は「患者さんに優しく患者さんに信頼される患者さん中心の医療を行う」ことを理念の最初に謳っています。患者の方々からいただくさまざまな声を真摯に受け止めながら、すべての教職員が一丸となって安全で質の高い医療を提供するとともに医学の発展に貢献してまいります。

慶應義塾大学病院 病院長 松本 守雄



目次

理念／ご挨拶	1
病院としての取り組み 2023年から2024年の主な取り組みと出来事／ご寄付について	3
<研究> 基礎・臨床一体の研究推進体制	7
病院の先進的な取り組み	9
革新的医療技術創出拠点(橋渡し研究支援機関・臨床研究中核病院)としての取り組み	10
<教育> 基礎・臨床一体型の教育	11
沿革	13
組織	15
役割と機能	17
資料	19
構内図	23
患者さんご紹介方法／初診受診ご予約方法／人間ドックのご案内	25

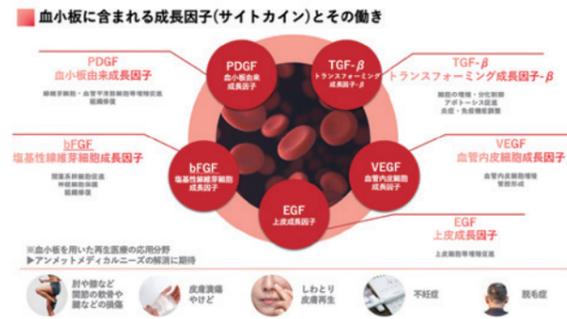
2023年から2024年の主な取り組みと出来事

1 自由診療開始

当院では、新たな取り組みとして、多様化する患者さんのニーズに応えるべく、医学的・科学的根拠に基づいたさまざまな医療サービス(自由診療)を開始いたしました。

スポーツ&メディカルフィットネスセンター

スポーツ&メディカルフィットネスセンターではPRP療法とメディカルフィットネスという2つの医療を展開します。
・PRP療法:アディポサイズ社と技術協力し、既存のPRPよりも血小板回収率ははるかに高く、「中身(血小板やサイトカインなどの量)のわかる」安心なPRPを作製します。この世界的にもユニークな技術によりPRP療法の効能や適応と限界などについて、しっかりと医学的根拠を構築していきます。
・メディカルフィットネス:医師とトレーナーが密に連携し、医学的に適切な運動療法を提供します。また、予防医療センターや各診療科と連携して、未病の方や疾患をお持ちの方、あるいは手術後の方でも利用できるサービスを提供していきます。



赤ちゃんの頭のかたち外来

当院の小児頭蓋顔面センターでは、頭蓋縫合早期癒合症という病的な頭の形の変形に対する治療に力を入れています。これまでの赤ちゃんの頭蓋変形の診察のうち、多くは病的な頭蓋縫合早期癒合症に伴うものではなく、向き癖などによる頭の歪みです。この変形を位置的頭蓋変形と呼び、ヘルメット治療が必要となります。
赤ちゃんの頭のかたち外来では、複数の診療科が連携して診療に当たり、適切な診断を行います。病気によって歪みが生じているのか、または位置的変形なのか、適切な鑑別診断を受け、状況に応じた治療を受けることが可能です。



美容医療

当院の美容外来では、アフターフォローを含め一貫して当院形成外科の医師が診療を担当し、学問的に検証された安全な美容医療を、厳重な医療安全管理体制のもとに提供します。大学の使命である臨床・研究・教育の観点で、安全・安心の美容医療を提供することが、慶應義塾大学病院で美容医療診療を行う目的です。
まず、痩身、黒子、瘢痕(きずあと)の治療を開始します。これは慶應義塾大学医学部形成外科学教室で長らく研究を行っている創傷治癒・皮膚再生の基礎研究の結果と、それに根差した臨床応用に基いています。また、当院では合併症に対する治療も安心して受けることができるシステムを作っております。診療は完全予約制で、それぞれのお悩みに対して丁寧にコンサルティングし、施術します。



ニューロモデュレーションセンター

ニューロモデュレーションとは、外部からの刺激により神経活動を調整することを指します。脳卒中や脊髄損傷などによって生じる神経活動の低下や過活動を、この技術により整え、運動練習の効果を高めます。
ニューロモデュレーションセンターでは、中枢神経損傷後の運動機能障害を抱える患者さんに対してニューロモデュレーション治療を行い、機能改善に取り組んでいます。また、先端的な医療機器を活用し、科学的な根拠に基づく治療を安全に提供することで、患者さんご家族の生活がより豊かになることを目指しています。



がんゲノム外来

同じがんでも、がん細胞の遺伝子変化は患者さんごとに異なります。がん遺伝子パネル検査は一度に数百種類の遺伝子変化を検査することが可能です。この検査により、がんの性質をより細かく理解し、一人ひとりに合った治療法を選択できる可能性が広がります。
保険診療によるがん遺伝子検査が適応でない患者さん、詳しい検査を早く行いたい患者さんなどに、自費診療によるがん遺伝子パネル検査をご案内します。



2 DMAT隊と能登半島地震

Disaster Medical Assistance Team(DMAT)は、災害急性期に活動できる機動性を持った災害派遣医療チームです。DMATは医師、看護師、ロジ(医師・看護師以外の医療職や事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者事故などの現場で急性期から活動できるよう、専門的な訓練を受けています。また、当院ではBCPと連携して院内の災害訓練を企画・運営し、病院が被災した際に安全・迅速に災害拠点病院としての機能を発揮できるように努めています。

DMAT隊員は、災害の際の活動を円滑に行うため、年数回の実働訓練に参加します。全国規模の訓練では遠隔地に参集することもあり、大型医療機器を含めた多くの資材を飛行機で運搬し、現地で車を確保して早朝から被災想定地域へ向かうこともあります。それらの訓練を通じて得られた課題は、月1回の院内のDMATワーキンググループにて解決案を相談します。備えあれば患いなしを体現するため、非災害時での濃密な話し合いを通じて、隊員個人およびDMAT隊としての成長を図っています。

DMATの全隊員はライフラインが途絶えた被災地での自立生活、活動中の自己および隊の安全管理、他のDMAT隊との連携、病院外でDMATの医療活動などに関して、知識・技術を獲得しています。その上で、医師は隊員全員の体調管理や医療活動の取りまとめと実施、看護師は医療活動における医師のサポートや被災者に寄りそった身体・精神面のケア、ロジは隊の機動力を確保した上での長距離運転や隊の活動記録などを分担して行います。普段は皆それぞれの職場で全く異なる通常業務を行っていますが、災害派遣や訓練の際にはチーム一丸となって取り組みます。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、1月11日に5名のDMAT隊員が能登半島へ出動しました。途絶したライフラインと長期活動を考慮してキャンピングカーでの移動を選択し、1月12日、参集拠点である輪島市役所内の輪島市保健医療調整本部に到着し、少しでも被災者の負担を軽くするよう到着直後から活動を開始しました。慶應DMAT隊は隊長がDMAT活動拠点本部の副本部長の任に就き、関東地方から派遣されたDMAT隊最大11隊を指揮しながら、市内福祉施設および入居者の支援を行いました。現地活動7日目、新たに来たDMAT隊へ業務を引き継いだ後、帰路につきました。

DMAT隊は病院内での活動を再開しており、今後も続く能登半島への慢性期医療支援の調整、院内災害訓練の準備などを進めています。



活動拠点本部周辺の道路

3 災害時のBCP(事業継続計画)

BCPとは災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画(Business Continuity Planning)のことで、特に日本では2011年の東日本大震災をきっかけにその重要性がますます注目されてきました。

防災マニュアルが、災害時に患者さんや従業員の安全、資源の確保を目的とするのに対し、BCPは災害時でも病院の医療機能提供を維持することが目的です。特に災害拠点病院においてBCPは大規模災害などの緊急事態に必要な不可欠で、当院では2013年に初版を作成し、その後、元消防庁の専門家による見直しなどの改定を経て、2022年8月に第3版が完成し現在に至っています。

その後もこのBCPの検証も含め、当院DMAT隊の主導による災害対応訓練を定期的に行っており、病院長、副病院長、看護部長も参加して、いざという時に迅速に対応し患者さんへの医療の提供が継続できるよう病院一丸となって努めています。

病院や社会の状況は常に変化を続けていますので、策定したBCPの内容も定期的に見直し、改善していくことが大切です。BCPは緊急時において患者さんや医療従事者、そして病院機能を守るための砦になる計画です。深刻なリスクに直面しても冷静に対応できるよう、当院では今後もBCPの見直しに積極的に取り組んでまいります。



訓練の様子(災害対策本部)

基礎・臨床一体の研究推進体制 - アカデミア発 新規医療技術をいち早く医療現場・社会へ -

慶應義塾大学は、医学・看護医療学、薬学、理工学、環境情報学など、生命医科学・医療の分野に直接関わる多彩な学部・大学院や、先端生命科学研究所、ウェルビーイングリサーチセンターなどの研究所を擁し、密接に連携・協働することを通して、総合的に研究を推進しています。慶應義塾大学病院は、2014年8月に臨床研究推進センター、さらに2019年8月に臨床研究監理センターを設置し、医学部・病院開設当初からの「基礎・臨床一体型医学・医療の実現」の基本理念のもと、基礎研究から臨床研究・治験、さらに実用化までの各研究開発プロセスを一貫して支援する体制を整備しました。

また、慶應義塾は、大学等の優れた基礎研究の成果を革新的な医薬品・医療機器等として実用化する橋渡し研究を支援する「橋渡し研究支援機関」として文部科学大臣から認定を受け、臨床応用を目指すアカデミア発の医療シーズ(医薬品・医療機器・再生医療等製品・体外診断用医薬品)に対して臨床研究推進センターが研究開発の支援を行っております。さらに、日本発の革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う医療法に基づく臨床研究中核病院として承認されています。

臨床研究実施方針

慶應義塾大学病院は、未来のよりよい医療のため、次の方針に基づく臨床研究を行います。

1.被験者の保護	被験者の身体の安全、プライバシーの保護、人権の尊重を第一とし、インフォームド・コンセントは丁寧な説明による十分な理解に基づいて受けます。
2.法令の遵守	法令、倫理指針等を遵守し、社会の一員として求められる責任を果たします。
3.公正な研究活動	気品の泉源、智徳の模範たる組織として、不正を容認せず、倫理と科学の両面で信頼される研究成果を追求します。
4.人材の育成	未来の医療を拓く質の高い研究者、医療人を育成します。
5.社会への還元	未来社会の発展のため、他施設への支援や相互協力をを行い、研究成果の実用化を促進します。

治験・臨床研究

臨床研究は、患者さんなどにご協力いただき、病気の原因の解明、予防・診断・治療の改善、傷病からの回復および生活の質の向上などのために行う医学研究です。研究の内容により遵守すべき規制が異なり、「人を対象とする生命医科学・医学系研究に関する指針」、「臨床研究法」、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」等のもとで実施されますが、以下の表に示したようにこれらの臨床研究は倫理委員会等で審議された上で実施されます。治験は新しい医薬品・医療機器・再生医療等製品などの製品候補について、その治験の内容を理解いただき文書にて同意をいただいた患者さんの参加により、薬事承認に必要なデータ(有効性及び安全性等)を収集することを目的としています。「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、関係省令に基づいて行われますが、臨床研究と同じように以下の表に示した治験審査委員会で審査され、承認された上で実施されます。

治験審査委員会で承認された新規治験契約件数

区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
企業治験					
医薬品	44	36	39	36	37
医療機器	2	0	2	4	1
再生医療等製品	2	0	3	0	2
医師主導治験					
医薬品	7	4	6	6	1
医療機器	1	1	1	0	1
計	56	41	51	46	42

※当該年度に承認された新規治験契約数を年度ごとに集計

医学部・病院で許可した新規研究課題件数

区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
臨床研究(特定・非特定)	38	21	19	15	20
再生医療等提供計画	1	3	1	1	0
倫理指針研究	340	355	348	340	388
その他(医療計画、疫学研究 他)	4	6	28	8	4
計	383	385	396	364	412

※当該年度に承認された新規申請課題を年度ごとに集計(前年度申請分を含む)

臨床研究推進センター

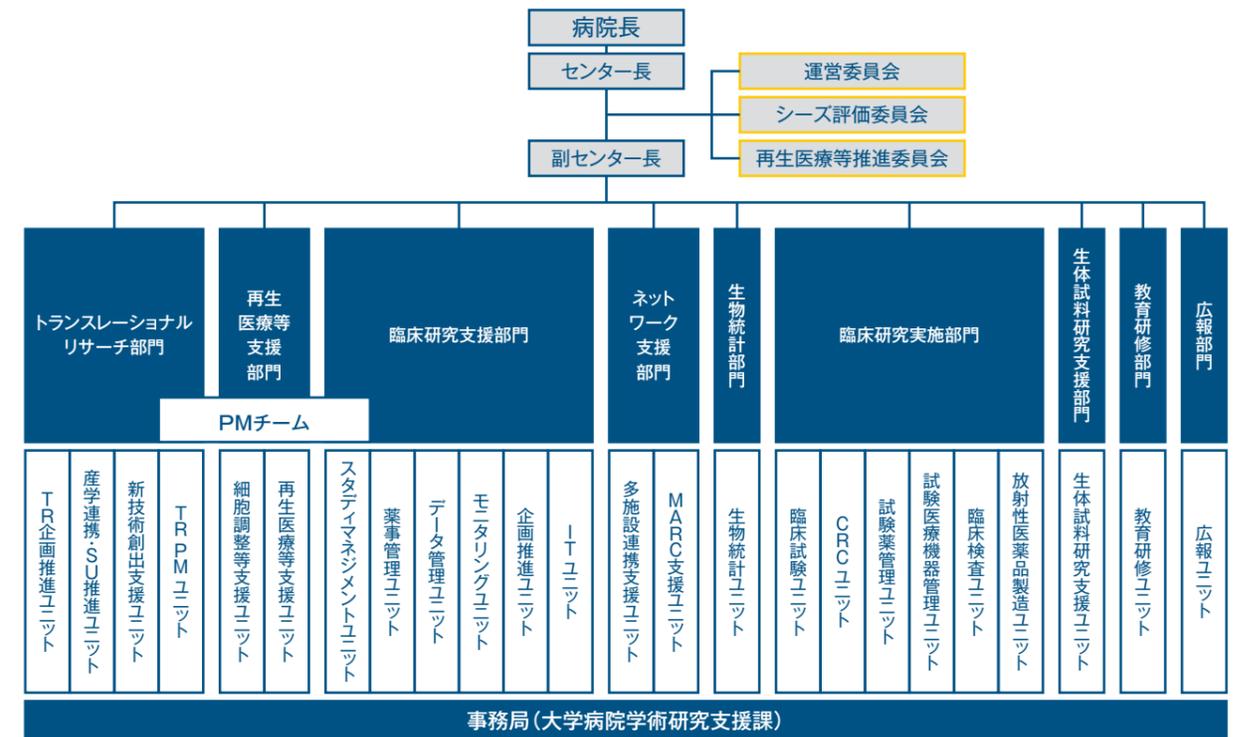
臨床研究推進センターは、ミッションとして「社会のニーズに応じた適切な医療が提供できるよう、より優れた医療技術を常に探求し、人類の健康増進に寄与する」を掲げ、研究室から生まれる基礎研究の成果を安全で有効な医療手段として患者さんにお届けするため、研究開発の各段階に必要な各種業務のエキスパートによる支援を行っています。また、センター運営委員会やシーズ評価委員会を設け、切れ目ない研究開発支援を可能とする体制としています。

臨床研究推進センターの詳細はWebサイトをご覧ください。

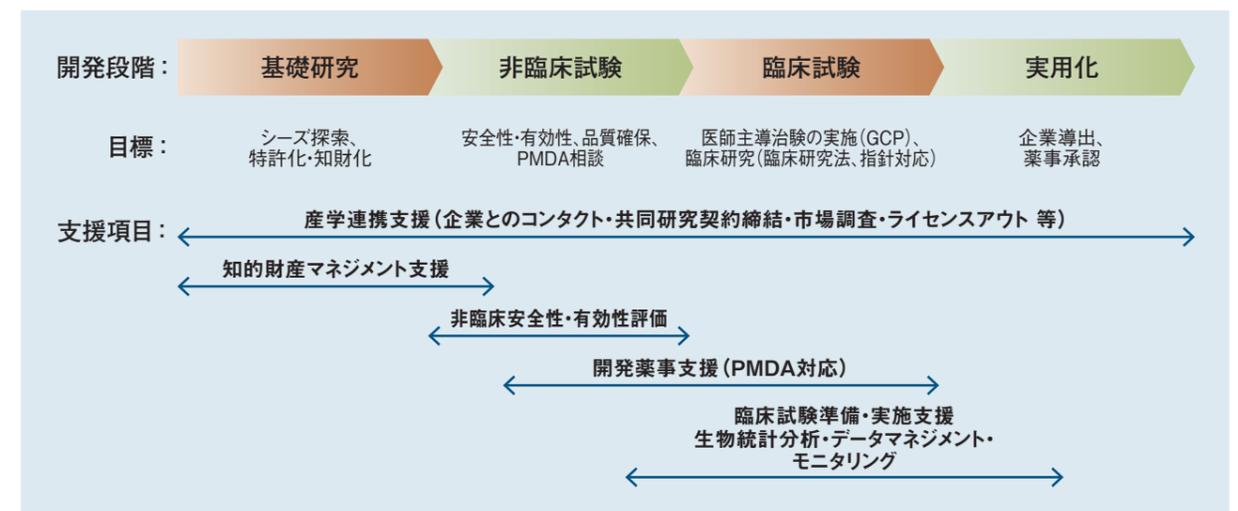
▶ <https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/>



臨床研究推進センターの組織・支援体制



シーズの開発段階に応じた支援業務



臨床研究監理センター

臨床研究監理センターは、慶應義塾大学病院の理念および臨床研究実施方針に基づく臨床研究や治験の適正な実施のため、2019年8月に新たに設置された組織です。

法令や倫理指針等により病院長の責務として定められた事項を補佐することを目的に、以下の業務を行っています。

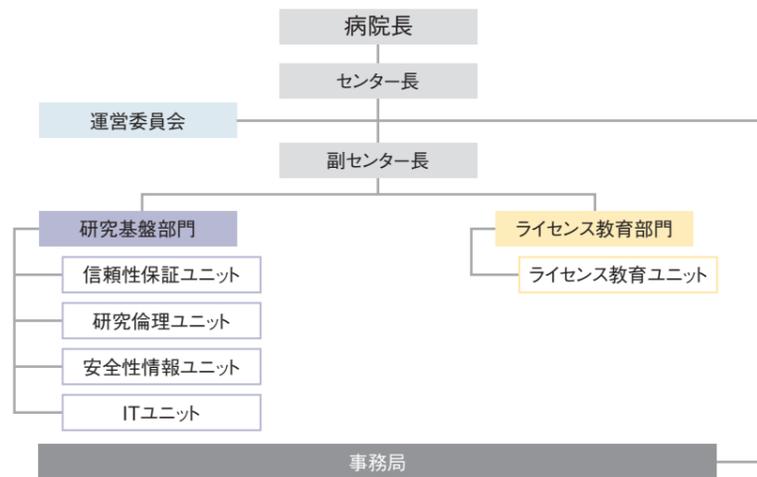
1. 臨床研究に係る倫理等の教育研修計画の策定および教育・研修の実施
2. 臨床研究の信頼性保証に係る監査等の実施
3. 臨床研究に係る有害事象・疾病等の安全性情報への対応
4. 臨床研究に係る法令および倫理指針等への適合に必要な業務
5. その他、病院長の指示する業務

臨床研究監理センターの詳細は、同センターWebサイトをご覧ください。

▶ <https://www.crea.hosp.keio.ac.jp/>



臨床研究監理センターの組織・支援体制



病院の先進的な取り組み

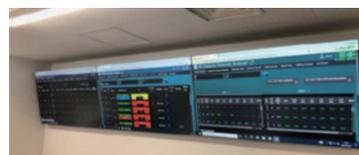
▶ AIホスピタル事業

慶應義塾大学病院は2018年10月に内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」に採択されました。これ以降、データの可視化・デジタル化、ロボットの導入、生成AIの活用、画像AI（内視鏡、X線）の活用、非接触・遠隔化技術の活用などのITやAI技術の実装に取り組んでまいりました。2023年10月からは厚生労働省「中小企業イノベーション創出推進事業」に採択され、スタートアップ企業と連携し、医療現場のニーズに即したサービスの技術開発を加速するため支援を行っています。この事業では、技術開発のみならず、開発された医療AIサービスを一元的に提供する「医療AIプラットフォーム」の実証、AIホスピタルシステム全体をパッケージとして全国の医療機関に普及させるために、信頼性の高いサービスの提供・利用促進におけるガバナンス機能の整備を目的としています。当院では、スタートアップ企業5社と連携して以下のテーマに取り組んでいます。

- ・クラウド型リハビリテーション医療情報プラットフォームの構築と社会実装
- ・医療人材向けAIシフト作成機能の開発と社会実装
- ・E-skin ECGを用いた郵送心電計検査の社会実装
- ・救急医療業務改善ツールの開発と社会実装
- ・高度先進病院特化カスタマイズ支援AI問診票の実装

また、病院WEBサイトではAI技術を活用した取り組みを紹介しております。現在、国内のみならず海外からも多くの見学者が来訪されています。見学をご希望の方は右記二次元コードよりお申込みください。

過去に開発実装したプロジェクトも継続しながら、今後もIT・AI技術を活用し、患者さんに安心・安全かつ高度で先進的な医療サービスの提供に努めてまいります。



「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」により導入した病棟管理のコマンドセンター



AI技術を活用した取り組みを紹介した病院Webサイト



研究

革新的医療技術創出拠点

(橋渡し研究支援機関・臨床研究中核病院)としての取り組み

橋渡し研究支援

2021年12月、慶應義塾は、大学等の優れた基礎研究の成果を革新的な医薬品・医療機器等として実用化する橋渡し研究を支援する「橋渡し研究支援機関」として文部科学大臣から認定を受けました。慶應義塾のみならず多くのアカデミア研究機関における基礎研究の成果(シーズ)を早期に臨床応用・実用化につなげるため、当院臨床研究推進センターにて開発支援をしております。支援シーズについては、データベースによるパイプライン一括管理を行い、シーズ開発関係者間で研究開発戦略を共有し、各研究のステップに応じた必要な支援を行うことができる体制を整えています。2019年度からは医療分野外からの医療応用可能な技術(異分野融合型:シーズH)を発掘・育成する取り組みを開始し、これまでにない革新的な医療技術の実用化を推進しております。

これらの研究シーズのうち、シーズCに移行したものは、臨床研究中核病院である当院を中心に特定臨床研究や医師主導治験が実施されております。

また、2024年度から医療系スタートアップ支援拠点として採択され、医療系スタートアップの支援・育成を通して、企業導出だけではない社会実装の実現を推進しています。

研究シーズの開発4つの段階	シーズH:異分野融合型(要素技術の原理確認、シーズAへの移行を目指す基礎課題)	シーズA:関連特許出願を目指す基礎研究課題	シーズB:非臨床POC(概念実証:Proof of Concept)取得および治験届出を目指す課題	シーズC:治験又は高度医療等を実施し、臨床POCを目指す課題
---------------	---	-----------------------	---	--------------------------------

研究シーズの段階と、領域別のシーズ開発支援状況

2024年8月1日現在の支援シーズは合計162件

シーズ	精神	神経	眼	耳鼻咽喉	歯	呼吸器	循環器	消化器	腎	泌尿器	生殖器	血液	筋・骨格	皮膚	がん	免疫	内分泌代謝	感染	疼痛	小児	その他	重複を除く合計
H:異分野融合型	0	2	0	3	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	10	0	1	3	0	0	4	29
A:基礎研究	1	6	0	3	0	3	5	7	2	2	2	2	1	2	25	8	2	4	1	1	4	64
B:非臨床試験	1	11	2	0	0	2	3	8	1	2	0	1	7	1	17	3	1	2	0	1	0	52
C:臨床試験	0	3	0	2	0	1	2	0	0	0	1	0	1	4	7	1	0	0	0	0	0	17

橋渡し研究支援による主要な研究領域

がん(59件)	シーズ開発の中で最大の件数を占めるのは、がんを対象としたシーズであり、医薬品・医療機器・再生医療等製品の薬事承認申請に向けて研究開発を進めています。
免疫(12件)	慶應義塾大学病院免疫統括医療センターにおいて、診療科横断的に免疫疾患に対する生物学的製剤治療を実施するとともに、新規治療法の開発を進めています。
再生医療(22件)	国の進める再生医療実現の事業拠点の一つとして、iPS細胞を用いた再生医療をはじめとしたさまざまな治療法の実用化を推進しています(対象例:脊髄、心筋、角膜等)。

橋渡し研究支援における首都圏ARコンソーシアム(MARC)との連携

MARC(Metropolitan Academic Research Consortium)はアカデミア発・日本発の革新的な医薬品・医療機器等を医療現場に届けるために、首都圏の私立医科大学をはじめとした臨床研究機関が連携・協力関係を結び、アカデミアの基礎研究成果を実用化につなげる非臨床・臨床一体型の橋渡し研究体制を構築し、人材育成や情報共有を図ることを目的として、2017年1月に設立され、その後は着実に加盟機関を増やし、2022年4月に一般社団法人として法人化されました。臨床研究推進センターでは、今後もMARCとの連携を継続しながら、外部シーズも含めた幅広い橋渡し研究支援を行ってまいります。

MARC Webサイト ▶ <https://marc-med.org/>

再生医療の推進

当院では、iPS細胞等を用いた臨床研究推進モデル病院として、整形外科、産婦人科、外科、循環器内科、眼科等において再生医療の臨床研究を開始するとともに、細胞培養加工や規制対応等も含めて支援が行える基盤整備を進めています。

(国研)日本医療研究開発機構 再生医療等実用化基盤整備促進事業

再生医療等推進モデル病院の充実(令和6~8年度)

▶ <https://www.amed.go.jp/program/list/13/01/09.html>

また、安全で有効な再生医療を促進するための取り組みの一つとして、再生医療等製品の製造支援のために、手術などで摘出され、通常は廃棄される組織や細胞を、倫理委員会等の所定の院内手続きに従い、あらかじめ患者さんの同意を得た上で、再生医療等製品を製造しようとする製薬企業等に、継続的に、かつ安定した品質で提供することで、再生医療等製品の開発の活性化を目指す事業を行っています。

▶ <https://tissue-procurement.hosp.keio.ac.jp/>

※本事業は、令和3~5年度(国研)日本医療研究開発機構 再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業「再生医療等製品用ヒト(同種)体性幹細胞原料の安定供給促進事業」に採択されています。



基礎・臨床一体型の教育 - 未来を拓く医療人の育成を目指して -

初代医学部長・病院長の北里柴三郎博士が提唱したのは、「基礎医学と臨床医学の連携を緊密にし、学内は融合して一家族の如く」という基本理念でした。さまざまな症例の実績を持つ慶應義塾大学病院は、臨床の現場から、患者さん一人ひとりに適切な医療を提供することを通じて、次世代の良質な医療に発展させ、医療に加えて臨床研究においても先導的な役割を果たしています。

この「基礎・臨床一体型の理念」は、患者さん中心の医療を実践するプロフェッショナリズムに根づいた慶應義塾大学病院の未来を拓く医療人材育成のバックボーンとして、今日に至るまで脈々と息づいています。

1 医師の育成

<卒前医学教育>

臨床実習

慶應義塾大学医学部では、第4学年3学期から第6学年2学期まで臨床実習が行われます。臨床実習では5~7名の小グループに分かれて各診療科をまわり、直接患者さんに接することで医学・医療的な知識を深め技術を高めるとともに、責任感や指導力、協調性など、医療に携わる者として不可欠な能力を習得します。近年、臨床実習の重要性が増しており、慶應義塾大学でもその充実化を図っています。

臨床実習には、診療科により診療参加型と見学型の2つの方法があります。近年主流になっている診療参加型臨床実習とは、学生が医療チームの一員となって研修医、指導医とともに診療にあたり、その過程で臨床医学を学ぶ方法です。学生が実際に診断や治療方針の最終決定をすることはありませんが、自分の力で患者さんから話を聞き、診察をして、診断や治療を考える機会を与えられます。また、臨床に直接参加することによって勉強への強い動機付けが得られます。



シミュレーターを活用した臨床実習



形成外科学教室における臨床実習



臨床研修におけるクリニカルシミュレーションラボでのトレーニング

<卒後医学教育>

臨床研修

臨床研修プログラムは、医師としての基本的な知識と診療技能、考え方や行動規範を学ぶことを目的としています。慶應義塾大学病院は多数の優秀な指導医を擁しており、最高の研修環境が整備されています。また、先輩の後期研修医（専修医）による直接的な研修指導、生活や進路面での相談など、直近の上級医とのコミュニケーションも円滑に行われています。

専門研修

慶應義塾大学病院では、専門研修を通じて、専門知識・技術と豊かな人間性を兼ね備え、患者さんと医療スタッフから信頼される専門医を育成しています。

さらに、大学病院での研修に加え、関連施設と緊密に連携して、専門診療のほかプライマリ・ケア、地域医療から集学的医療・高度先進医療まで、それぞれのキャリア・パスに沿った多彩な研修プログラムが行われています。

慶應義塾大学 医療系学部・大学院学生数(人) (2023年度)

大学院	医学研究科	390
	健康マネジメント研究科	149
	薬学研究科	151
大学	医学部	671
	看護医療学部	449
	薬学部	1,153

医師研修受け入れ人数(人) (2023年度)

臨床研修(研修医課程)	122
専門研修(専修医課程)	708

上記のほか、専門職を目指す実習生を学外から157人(2023年度延べ)受け入れました。

2 看護師・薬剤師の育成

看護医療学部生・薬学部生 臨床実習

看護医療学部生・薬学部生は、病棟、外来、薬剤調剤、調製室などをフィールドに臨床実習を行い、看護師や薬剤師の指導のもと、チーム医療の実際を学んでいます。臨床実習は医療の実際を知る貴重な場であり、学部と病院看護部、薬剤部が協同して取り組み、よりよい人材の育成を目指しています。

三学部合同教育

慶應義塾大学では、医療系三学部(医学部、看護医療学部、薬学部)で合同教育を行い、学生のうちから多職種間の交流を深め、将来、患者さん中心のグループアプローチによる医療が実践できる医療人に成長することをサポートしています。

2023年度から三学部合同特別実習を稚内市などで行っています。

詳細 ▶ <https://ipe.keio.ac.jp/>



医療系三学部合同臨床実習



3 メディカルスタッフの育成

2012年度より、現場力の向上を目的として、メディカルスタッフを対象とした研修を行っています。各職場で生じている課題をテーマに、収支改善を意識した問題解決のトレーニングを行います。多職種からなるグループで検討することにより、課題解決能力を向上させるとともに、職場の活性化やチーム医療推進の一翼を担っています。



現場力向上ワークショップ 第10期生修了式

4 病院経営人材の育成

慶應義塾大学は、2017年度文部科学省大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択されました。これに基づき、健康マネジメント研究科・経営管理研究科・医学研究科・大学病院が協働して、構想力、戦略的な意思決定、実行力に富んだ病院の経営リーダーを育成することを目的とした病院経営人材育成プログラムを開始し、2018年度以降、各年度3名ずつ病院から派遣しています。慶應型ケースメソッドをベースとする本プログラムは、その成果を公開し、他大学・大学病院や地域基幹病院の経営人材育成にも広く資することを目的としています。

5 外部からの実習生受け入れ

外部施設より多職種の学生実習を受け入れています。(右表参照) 学生は、病院というフィールドで医療者とともに実習し、高度医療とともに患者さん中心のチーム医療の実際を学んでいます。

看護師や臨床検査技師の領域では、有資格者の上級資格取得を目的とした臨床実習を、他医療機関から受け入れて行っています。また、地域の若手リハビリ技士の実習も受け入れ、地域の医療者育成のための実習などを行い、医療の質向上に貢献しています。

学生臨床実習受け入れ状況 (2023年度)

受け入れ部門	実習受け入れ施設数
リハビリテーション科(OT・PT・ST)	2
放射線技術室(診療放射線技師)	7
看護部(専門看護師・認定看護師)	4
食養管理室(管理栄養士)	5
眼科(視能訓練士)	2
医用工学室(臨床工学技士)	5
臨床検査技術室(臨床検査技師)	8
歯科・口腔外科(歯科衛生士)	3
医事統括室	1
医学部	6

沿革 - 慶應義塾大学 医学部・病院のあゆみ -

1835年 福澤諭吉、大阪中津藩蔵屋敷で誕生



1855年 福澤諭吉、緒方洪庵の適塾に入門

1858年 慶應義塾開塾 江戸築地鉄砲洲に蘭学塾を開く

1860年 福澤諭吉、はじめての外遊 咸臨丸で渡米

1862年 福澤諭吉、遣欧使節として欧州各国を巡歴

1868年 慶應義塾と命名

1871年 慶應義塾、三田に移転

1873年 三田山上に「慶應義塾医学所」設立(～1880年)

1890年 大学部を発足し、文学・理財・法律3科を設置

1892年 北里柴三郎博士を所長とする伝染病研究所設立



1893年 北里柴三郎博士、土筆ヶ岡養生園設立

1901年 2月3日、福澤諭吉逝去

1917年 慶應義塾大学部医学科開設
4月、医学科予科の授業を三田山上で開始
11月、四谷区信濃町の陸軍用地を購入

1918年 医学科附属看護婦養成所開設(～1950年)

1920年 4月、文学・経済学・法学・医学の4学部からなる総合大学へ
11月6日、医学部開校ならびに大学病院開院式
11月8日、慶應医学会第一回総会開催
翌大正10(1921)年「慶應醫學」創刊





1920年大学病院開院式 開院当時の病院全景 開院当時の病院玄関内部

1922年 医学部附属産婆養成所開設

1923年 関東大震災(火災にあった病院の救済・診療を支援。32万4千人以上の患者を診療)

1924年 大学病院特別病棟竣工

1926年 食養研究所設立(～1990年)

1928年 多磨墓地に医学研究に献体されたご遺体を葬り冥福を祈るための納骨堂建設
第一回の解剖諸霊供養法会を芝増上寺で開催

1929年 ロックフェラー財団寄付により、予防医学校舎竣工

1932年 新赤倉温泉の地に三代会、赤倉山荘建設(昭和35(1960)年焼失、平成6(1994)年再建)
病院別館竣工(鉄筋コンクリート地下1階地上4階建、219病床)

1934年 福澤諭吉生誕100年ならびに日吉開校記念祝賀会開催

1936年 日吉第二校舎竣工、日吉キャンパスで医学部教育開始

1937年 北里記念医学図書館竣工
特殊薬化学研究所設立

1941年 月ヶ瀬温泉治療学研究所開設
昭和33(1958)年狩野川台風により流失、同年廃止

1944年 軍医不足という社会的要請を受け大学附属医学専門部を開設し、463名の人材を輩出(～1951年)

1945年 5月24日、空襲により医学部・病院施設の約6割焼失
8月15日、終戦

1946年 基礎医学教室、武蔵野分校へ移転(～1956年春)

1948年 病院本館竣工(戦後最大の木造建築2階建、153病床)




病院本館玄関 病院本館受付

1950年 エール大学ロング教授らを招聘し、CPC(臨床・病理症例検討会)開始
電子顕微鏡研究室開室
医学部附属厚生女子学院開設(～1988年)



医学部附属厚生女子学院卒業式

1952年 新制大学医学部発足
“The Keio Journal of Medicine”創刊
北里柴三郎博士生誕100年
三四会より第一回北里賞授与

1955年 進学課程2年、専門課程4年の戦後の医学教育体系確立

1956年 大学院医学研究科(博士課程)設置

1958年 慶應義塾創立100年記念式典

1961年 米国チャイナ・メディカル・ボードの寄付を受け、基礎医学第二校舎竣工

1963年 病院中央棟竣工

1965年 病院1号棟竣工

1966年 「財団法人慶應がんセンター」発足(～2002年)

1967年 医学部創立50周年記念式



医学部創立50周年記念式

1969年 「医学部改革委員会」設置、臨床講堂竣工

1970年 「財団法人慶應健康相談センター」発足(～2008年)

1972年 北里記念医学図書館(1971年より医学情報センター)の情報サービス部門を独立、「財団法人国際医学情報センター」発足

1973年 病院ボランティア導入(日本病院ボランティア協会に入会)

1974年 三重県伊勢市の病院の寄付を受け、慶應義塾大学伊勢慶應病院を開院(～2003年)

1977年 月ヶ瀬リハビリテーション・センター開設(～2011年)

1979年 医学部共同利用R.I.(ラジオアイソトープ)研究棟竣工

1983年 慶應義塾創立125年記念式典

1984年 米国医科大学での学生臨床研修開始

1986年 大学病院新棟(現2号館)竣工




大学病院新棟(現2号館)開院当時の病院全景 大学病院正面玄関

1988年 看護短期大学開設(～2001年)

1990年 第一回自主学習成果発表会

1994年 特定機能病院として認定
大学院医学研究科(修士課程)設置

1996年 医学部新教育研究棟竣工
坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金による第一回慶應医学賞授賞式および記念講演会開催

2001年 看護医療学部開設
総合医科学研究棟竣工・リサーチパーク発足



総合医科学研究棟

2007年 クリニカルリサーチセンター発足
「信濃町キャンパス改革・刷新プロジェクト」設置(～2008年3月)

2008年 共立薬科大学との合併により、薬学部開設
慶應義塾創立150年記念式典
臨床研究棟竣工

2010年 3号館(北棟)竣工

2011年 東日本大震災、慶應義塾救援医療団派遣
医療系三学部(医看護)による合同教育開始

2012年 総合医療情報システム(電子カルテ)導入
3号館(南棟)竣工・予防医療センター開設

2015年 1号館(I期棟)竣工

2016年 臨床研究中核病院として認定

2017年 医学部開設100年
JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター(通称JKIC)開所

2018年 1号館(II期棟)竣工・1号館開院
慶應看護100年

2020年 大学病院開院100年

2022年 大学病院グランドオープン

2023年 予防医療センターが麻布台ヒルズに移転

福澤諭吉と北里柴三郎

福澤諭吉が北里柴三郎に贈った『贈医(医に贈る)』という言葉

慶應義塾の創立者である福澤諭吉は日本の文明開化の精神的支柱を打ち立て、『学問のすゝめ』等の多くの著作や多くの言葉を残しました。のちに初代医学部長となる北里柴三郎博士が、伝染病研究所の設立に尽力した時に、福澤は北里に『贈医(医に贈る)』と命名した七言絶句の漢詩を贈っています。その意味は概略すると以下ようになります。

医学は天と人との限りの無い勝負である。医師よ「自然(の回復)を助ける立場である」などと言わないでもらいたい。離婁^{*1}のような眼力と、麻姑^{*2}のような手によって、手段をつくすことこそ医学の真髄なのだ。

*1 離婁[リロウ] 中国の古伝説上の名。百歩離れた場所にある毛ほどの小さいものも見る視力をもつという。

*2 麻姑[マコ] 仙女の名。美しく、手のつめが長く、鳥のようだったという。「孫の手」は麻姑の手が語源とされる。



贈医の七言絶句

福澤諭吉と北里柴三郎(『慶應義塾豆百科』より)

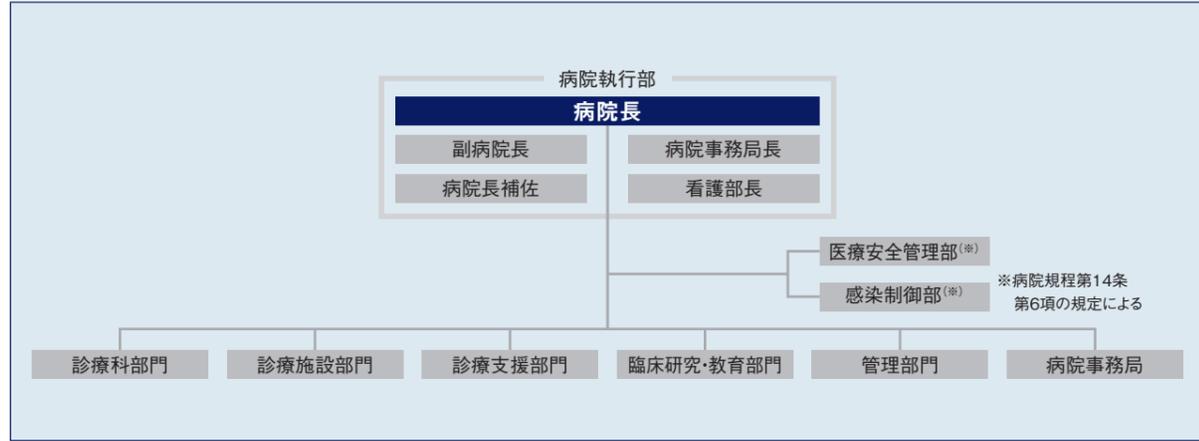
人の一生にとって、ある出会いがその人の生涯を決めることがある。北里柴三郎の場合も、福澤先生と出会ったことが、彼の人生行路を決定づける上で、大きな役割を果たしたことは否み得ない。北里は熊本の人で、東京医学校を卒えるや内務省衛生局に入り、当時の局長長与専齋の知遇を得、明治18年(1885年)ドイツに留学、コッホに師事して細菌学を学び、破傷風菌の純粋培養と血清療法を発見するなど、数多くのすぐれた研究成果を挙げ、明治25年(1892年)に帰朝した。当時の日本は衛生状態もきわめて悪く、各種の伝染病が流行していた。北里は1日も早く伝染病研究所を設立することの急務を説いたが、そこには多くの困難があった。北里の終始変わらぬ庇護者であった長与はこうした北里の窮状を福澤先生に打ち明けその援助を求めたのである。先生にとって長与は緒方塾以来の親友であり、かつ北里の業績にもかかねてから注目していただだけに、早速同年10月4日付の時事新報に「医術の新発見」と題する社説を掲げて彼の業績を紹介するとともに、知友の実業家森村市左衛門と協力して芝公園の御成門脇に研究所を建て、北里の使用に供したのであった。伝染病研究所としてはわが国嚆矢のものである。この研究所はその後大日本私立衛生会の所管となり、場所も芝愛宕下に移ったが、その時も地域住民の激しい反対に対し、先生は時事新報紙上で情理を尽くして説得に当たったことも、北里には忘れられ得ぬ感銘であった。

さらに明治32年(1899年)には国立に移管されたが、その際も福澤先生は政府の方針でいつ施策が変わるかも知れないから、それに備えて資金を蓄えておくよう助言を与えたのであった。そればかりか明治26年(1893年)に北里をして芝白金に結核療養所土筆(つくし)ヶ岡養生園を建てさせ、万一の場合に備えさせることにしたのである。果たせるかな大正3年(1914年)、政府は北里に一言の相談もなく、研究所の所管を内務省から文部省に移し、東京大学の傘下に入れるよう組織がえを図ったのである。北里は断然職を辞し、福澤先生の助言で用意しておいた私財30万円を投じて養生園の敷地内に新たに研究所を興した。今日の北里研究所がそれである。従って大正6年(1917年)、慶應義塾が医学部開設に際し、北里自身が門下の俊秀を率いてその創設に心血を注いだのは、福澤先生との出会いによって受けた過去の恩誼に、いささかでも報いたい気持ちからであったことはたしかであろう。

組織

運営体制

(2024年11月1日時点)



組織の構成

(2024年11月1日時点)

病院執行部

病院長	(管理者)	松本守雄
副病院長		志水秀行
副病院長		陣崎雅弘
副病院長		佐々木淳一
副病院長		福永興吉
副病院長		金子祐子
副病院長		内田裕之

病院長補佐		藤澤大介
病院長補佐		鳴海覚志
病院長補佐		朝倉啓介
病院事務局長		古田正
看護部長		加藤恵里子

診療科部門

呼吸器内科	診療科部長(教授)	福永興吉
循環器内科	診療科部長(教授)	家田真樹
消化器内科	診療科部長(准教授)	中本伸宏
腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長(教授)	林香
神経内科	診療科部長(教授)	中原仁
血液内科	診療科部長(教授)	片岡圭亮
リウマチ・膠原病内科	診療科部長(教授)	金子祐子
一般・消化器外科	診療科部長(准教授)	尾原秀明
呼吸器外科	診療科部長(教授)	朝倉啓介
心臓血管外科	診療科部長(教授)	志水秀行
脳神経外科	診療科部長(教授)	戸田正博
小児外科	診療科部長(教授)	藤野明浩
整形外科	診療科部長(教授)	中村雅也
リハビリテーション科	診療科部長(教授)	辻哲也
形成外科	診療科部長(教授)	貴志和生
小児科	診療科部長(教授)	鳴海覚志

産科	診療科部長(教授)	田中守
婦人科	診療科部長(教授)	山上亘
眼科	診療科部長(教授)	根岸一乃
皮膚科	診療科部長(准教授)	船越建
泌尿器科	診療科部長(教授)	大家基嗣
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療科部長(教授)	小澤宏之
精神・神経科	診療科部長(教授)	内田裕之
放射線治療科	診療科部長(教授)	武田篤也
放射線診断科	診療科部長(教授)	陣崎雅弘
麻酔科	診療科部長(教授)	山田高成
救急科	診療科部長(教授)	佐々木淳一
歯科・口腔外科	診療科部長(教授)	中川種昭
総合診療科	診療科部長(教授)	佐々木淳一
臨床検査科	診療科部長(教授)	松下弘道
病理診断科	診療科部長(准教授)	大喜多肇

診療施設部門

予防医療センター	センター長(教授)	高石官均
血液浄化・透析センター	センター長(教授)	大家基嗣
内視鏡センター	センター長(教授)	加藤元彦
腫瘍センター	センター長(教授)	大家基嗣
輸血・細胞療法センター	センター長(教授)	田野崎隆二
スポーツ医学総合センター	センター長(教授)	佐藤和毅
漢方医学センター	センター長(教授)	福永興吉
臨床遺伝学センター	センター長(教授)	小崎健次郎
免疫統括医療センター	センター長(教授)	金子祐子
緩和ケアセンター	センター長(専任講師)	竹内麻理
手術・血管造影センター	センター長(教授)	志水秀行
集中治療センター	センター長(教授)	佐々木淳一
救急センター	センター長(教授)	佐々木淳一
臨床感染症センター	センター長(教授)	長谷川直樹
がんゲノム医療センター	センター長(教授)	西原広史

診療支援部門

看護部	部長	加藤恵里子
薬剤部	部長(教授)	大谷壽一
滅菌管理部	部長(准教授)	尾原秀明
食養管理室	室長代理	大木いづみ
医用工学室	室長(教授)	佐々木淳一
放射線技術室	室長	田原祥子
臨床検査技術室	室長	横田浩充

臨床研究・教育部門

臨床研究推進センター	センター長(教授)	長谷川奉延
臨床研究監理センター	センター長(教授)	金子祐子
卒後臨床研修センター	センター長(教授)	門川俊明

管理部門

病院情報システム部	部長(教授)	陣崎雅弘
医療安全管理部	部長(教授)	志水秀行
感染制御部	部長(教授)	長谷川直樹
患者総合相談部	部長(教授)	内田裕之
医療連携推進部	部長(教授)	福永興吉
放射線安全管理室	室長(教授)	井上浩義
医療保険指導部	部長(准教授)	小杉志都子
国際診療部	部長(専任講師)	八木洋

病院事務局

経営企画室	医事統括室	秘書室
総務課	人事課	管財課
経理課	キャリア開発室	学術研究支援課
調達会計課		

診療クラスター

IBD(炎症性腸疾患)センター	センター長(教授)	金井隆典
メモリーセンター	センター長(特任教授)	伊東大介
周産期・小児医療センター	センター長(教授)	田中守
母斑症センター	センター長(教授)	鳴海覚志
プレストセンター	センター長(准教授)	林田哲
リプロダクションセンター	センター長(准教授)	山田満穂
骨転移診療センター	センター長(専任講師)	中山ロバート
睡眠センター	センター長(教授)	福永興吉
痛み診療センター	センター長(准教授)	小杉志都子
消化器センター	センター長(教授)	金井隆典
呼吸器センター	センター長(教授)	福永興吉
アレルギーセンター	センター長(教授)	福永興吉
頭蓋底センター	センター長(教授)	戸田正博
臓器移植センター	センター長(准教授)	尾原秀明
循環器センター	センター長(教授)	志水秀行
小児頭蓋顔面(クラニオ)センター	センター長(教授)	貴志和生
性分化疾患(DSD)センター	センター長(教授)	長谷川奉延
糖尿病先制医療センター	センター長(専任講師)	目黒周
脳卒中センター	センター長(教授)	中原仁
遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)センター	センター長(教授)	小崎健次郎
側弯症診療センター	センター長(准教授)	渡邊航太
パーキンソン病センター	センター長(教授)	中原仁
リンパ浮腫診療センター	センター長(教授)	辻哲也
血管腫・血管奇形センター	センター長(専任講師)	荒牧典子
腸管機能リハビリテーションセンター	センター長(教授)	藤野明浩
ロボット支援手術センター	センター長(専任講師)	松本一宏
大血管浸潤腫瘍治療センター	センター長(准教授)	尾原秀明
メンタルヘルス・リエゾンセンター	センター長(教授)	内田裕之
聴覚センター	センター長(准教授)	大石直樹
ニューロモデュレーションセンター	センター長(准教授)	川上途行
スポーツ&メディカルフィットネスセンター	センター長(教授)	佐藤和毅

※順不同

役割と機能

特定機能病院 – さまざまな連携と適切な医療の実践 –

患者さん一人ひとりの症状に合った適切な医療を提供するために、病院、診療所、クリニックといった各医療機関は、それぞれが持つ機能によってさまざまな役割を担っています。その中で慶應義塾大学病院は、国や自治体から「特定機能病院」「地域がん診療連携拠点病院」といった役割の指定を受けています。

当院では、高度な医療を提供するとともに、高度な研究・開発・研修を行う「特定機能病院」として、一般の医療機関では実施することが難しい専門医療を必要とする患者さんや、病気が進行中の急性期の患者さんの治療を行うため、他の病院や診療所から紹介を受けた患者さんの診療を行っています。また、継続的なフォローアップなど、患者さんにとって地元の医療機関の方が通院に適切な場合、紹介元の医療機関やご希望の医療機関へ逆紹介を積極的に行っています。

また、当院では、下記をはじめとする、さまざまな体制で、他の医療機関と、より結びつきの強い連携を行っています。

連携機関	慶應義塾大学関連病院会	慶應義塾大学医学部三四会医療機関
	医療連携協定締結医療機関(慶應メディカルパートナー)	地域医療機関・看護・介護・保健機関
	救急連携医療機関	その他

臨床研究中核病院

臨床研究中核病院は、日本発の革新的な医薬品・医療機器・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として、厚生労働大臣が承認するものです。承認要件として、臨床研究計画の立案と実施の実績、臨床研究支援体制、データ管理体制、安全管理体制、倫理審査体制、利益相反管理体制、知的財産管理・技術移転体制、国民への普及・啓発および研究対象者への相談体制など、さまざまな体制整備が求められます。慶應義塾大学病院は2016年3月25日に、私立大学としては初めての承認を受けています。

承認指定(法令等による医療機関の承認指定等)

承認指定

名称
開設許可(承認)
特定機能病院
臨床研究中核病院
日本医療機能評価機構認定病院(一般病院3)
東京都災害拠点病院
日本DMAT指定医療機関
地域周産期母子医療センター
地域がん診療連携拠点病院
エイズ中核拠点病院
臓器移植登録施設(肝臓、小腸、腎臓)
臨床修練指定病院(外国医師・外国歯科医師)
東京都アレルギー疾患医療拠点病院
がんゲノム医療中核拠点病院
地域リハビリテーション支援センター
結核患者収容モデル事業実施病院
臨床研修病院(基幹型・協力型)
歯科医師臨床研修施設
東京都難病診療連携拠点病院

法令による医療機関の指定

名称
消防法(救急医療)
健康保険法(保険医療機関)
国民健康保険法(療養取扱機関)
労働者災害補償保険法
地方公務員災害補償法
被爆者援護法
戦傷病者特別援護法
母子保健法
生活保護法
児童福祉法
難病法
障害者総合支援法
精神保健福祉法
感染症法(結核指定医療機関・第二種感染症指定医療機関・第一種協定指定医療機関・第二種協定指定医療機関)
中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律

先進医療

先進医療は、国民の安全性確保と患者負担の増大防止という2つの観点を踏まえつつ、国内未承認・保険適用外の医薬品・医療機器について将来的な保険適用のための評価を行うもの(評価療養)として、特例として保険診療との併用が認められる制度です。医療技術ごとに一定の施設基準が設定されています。

慶應義塾大学病院で実施中の先進医療

2024年8月1日時点

	名称	実施診療科	承認年月日
先進医療 A	子宮内膜擦過術	産婦人科	2022年 9月 1日
	子宮内膜刺激術	産婦人科	2022年 9月 1日
	子宮内膜受容能検査1	産婦人科	2022年 9月 1日
	子宮内細菌叢検査1	産婦人科	2022年 9月 1日
	内視鏡的胃局所切除術	腫瘍センター	2022年11月 1日
	血中循環腫瘍DNAを用いた微小残存病変量の測定	一般・消化器外科	2024年 3月 1日
	膜構造を用いた生理学的精子選択術	産婦人科	2024年 8月 1日
先進医療 B	内視鏡的憩室隔壁切開術	腫瘍センター／内視鏡センター	2024年 8月 1日
	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検／早期胃がん ※新規患者受入は終了しました	一般・消化器外科	2014年 1月 1日
	テモゾロミド用量強化療法／膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。) ※新規患者受入は終了しました	脳神経外科	2017年 1月 1日
	反復経頭蓋磁気刺激療法／薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	精神・神経科	2019年 5月 1日
	イマチニブ経口投与及びベムプロリズムマブ静脈内投与の併用療法／進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	皮膚科	2020年 2月 1日
	抗腫瘍自己リンパ球移入療法／子宮頸癌(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	産婦人科	2021年 1月 1日
	ネシツムマブ静脈内投与療法／切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。) ※新規患者受入は終了しました	腫瘍センター	2022年 9月 1日
	生体肝移植術／切除が不可能な肝門部胆管がん	一般・消化器外科	2023年 4月 1日
生体肝移植術／切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	一般・消化器外科	2024年 1月 1日	

患者申出療養

患者申出療養は、患者さんの申出を起点に、国内未承認薬などを使用した先進的な医療を、安全性・有効性等を確認するなどの一定のルールにより保険診療との併用を認める、保険外併用療養費制度の中に位置づけられた制度です。将来の保険適用を目指し、国の指定を受けた病院(臨床研究中核病院)が臨床研究として計画し、病院および国の会議で十分に審議された上で実施されます。

ご参考: 患者申出療養制度(厚生労働省Webサイト)

▶ <https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/>



慶應義塾大学病院で実施中の患者申出療養

名称	実施診療科	承認年月日
マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療(※通称 受け血試験)／根治切除が不可能な進行固形がん(遺伝子プロファイリングにより、治療対象となる遺伝子異常が確認されたものに限る。)	腫瘍センターほか	2020年12月24日
経皮的胸部悪性腫瘍凍融壊死療法／肺悪性腫瘍、縦隔悪性腫瘍、胸膜悪性腫瘍又は胸壁悪性腫瘍	呼吸器外科	2023年 4月14日

資料

基礎データ

区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
許可病床数(床)	960	946	946	950	950
病床稼働率(%)	88.1	70.3	82.2	85.3	88.0
外来患者延べ人数(人)	871,454	725,794	836,773	872,905	867,005
1日平均外来患者数(人)	3,252	2,678	3,088	3,221	3,188
入院患者延べ人数(人)	309,641	244,268	283,696	295,888	305,974
1日平均入院患者数(人)	846	669	777	811	836
平均在院日数(日)	11.6	12.0	11.5	11.5	11.1
手術件数(件)	16,466	12,280	15,204	16,020	16,742
手術全身麻酔件数(件)	8,847	6,755	8,206	8,615	8,782
救急患者数(人)	16,536	7,442	12,201	14,122	15,975
紹介率(%)	81.0	73.2	78.7	81.3	84.6
逆紹介率(%)	41.6	48.7	48.8	66.8	83.1
分娩件数(件)	642	472	670	800	859
セカンドオピニオン(人)	468	237	345	436	491

※許可病床数は各年度3月31日時点の病床数。 ※病床稼働率は届出病床数を基に算出。

外来患者数(人)		入院患者数(人)	
(2023年度)		(2023年度)	
年間新規患者数	40,797	年間新規患者数	26,916
年間延べ患者数(再掲)	867,005	年間延べ患者数(再掲)	305,974
1日平均患者数(再掲)	3,188	1日平均患者数(再掲)	836

診療科別データ

外来患者数(人) (2023年度)

診療科名	外来患者数					
	年間			1日平均		
	初診	再診	合計	初診	再診	合計
呼吸器内科	975	36,227	37,202	4	133	137
循環器内科	1,298	44,897	46,195	5	165	170
消化器内科	1,772	75,262	77,034	7	277	283
腎臓・内分泌・代謝内科	518	56,840	57,358	2	209	211
神経内科	726	26,720	27,446	3	98	101
血液内科	288	15,315	15,603	1	56	57
リウマチ・膠原病内科	479	32,915	33,394	2	121	123
一般・消化器外科	763	32,381	33,144	3	119	122
呼吸器外科	499	8,022	8,521	2	29	31
心臓血管外科	144	6,646	6,790	1	24	25
脳神経外科	725	10,767	11,492	3	40	42
小児外科	255	3,476	3,731	1	13	14
整形外科	3,660	55,369	59,029	13	204	217
リハビリテーション科	81	6,260	6,341	0	23	23
形成外科	962	11,754	12,716	4	43	47
小児科	2,080	21,178	23,258	8	78	86
産婦人科	2,286	57,074	59,360	8	210	218
眼科	3,416	52,249	55,665	13	192	205
皮膚科	1,646	42,720	44,366	6	157	163
泌尿器科	949	40,666	41,615	3	150	153
耳鼻咽喉科	1,774	29,509	31,283	7	108	115
精神・神経科	816	36,108	36,924	3	133	136
放射線治療科	60	15,140	15,200	0	56	56
放射線診断科	570	489	1,059	2	2	4
麻酔科	179	19,383	19,562	1	71	72
救急科	5,513	2,876	8,389	20	11	31
歯科・口腔外科	5,061	34,903	39,964	19	128	147
総合診療科	185	4,731	4,916	1	17	18
その他	3,117	46,331	49,448	11	170	182
合計	40,797	826,208	867,005	150	3,038	3,188

※1日平均を表示する際に端数を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

入院患者数・平均在院日数 (2023年度)

診療科名	入院患者数(人)		平均在院日数(日)
	年間	1日平均	
呼吸器内科	19,718	54	12.0
循環器内科	17,540	48	7.5
消化器内科	26,859	73	8.6
腎臓・内分泌・代謝内科	7,518	21	10.6
神経内科	13,894	38	16.3
血液内科	17,765	49	26.7
リウマチ・膠原病内科	7,994	22	21.6
一般・消化器外科	32,057	88	13.5
呼吸器外科	6,588	18	8.2
心臓血管外科	8,042	22	15.9
脳神経外科	9,759	27	15.5
小児外科	3,179	9	8.3
整形外科	31,903	87	13.1
リハビリテーション科	1,206	3	22.9
形成外科	4,465	12	7.2
小児科	19,495	53	9.9
産婦人科	25,367	69	6.6
眼科	8,263	23	3.2
皮膚科	5,723	16	12.3
泌尿器科	12,884	35	7.3
耳鼻咽喉科	10,342	28	12.5
精神・神経科	5,268	14	18.5
麻酔科	89	0	1.3
救急科	7,114	19	14.6
歯科・口腔外科	2,942	8	11.0
その他	0	0	0.0
合計	305,974	836	11.1

※1日平均・平均在院日数を表示する際に端数を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

手術件数 (2023年度)

診療科名	件数
内科	678
一般・消化器外科	1,699
呼吸器外科	608
心臓血管外科	389
脳神経外科	392
小児外科	190
整形外科	2,037
形成外科	890
産婦人科	2,245
眼科	3,793
皮膚科	523
泌尿器科	1,232
耳鼻咽喉科	719
精神・神経科	534
麻酔科	36
救急科	204
歯科・口腔外科	416
その他	157
合計	16,742

保険手術実績一覧

各手術の区分は、厚生労働省の定める施設基準の分類に基づきます。

区分1に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2021年	2022年	2023年
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	120	146	155
イ 黄斑下手術等	474	493	561
ウ 鼓室形成手術等	107	76	82
エ 肺悪性腫瘍手術等	227	242	242
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	288	269	274

区分2に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2021年	2022年	2023年
ア 靭帯断裂形成手術等	87	76	84
イ 水頭症手術等	57	67	78
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	12	9	7
エ 尿道形成手術等	52	46	53
オ 角膜移植術	48	53	79
カ 肝切除術等	157	143	150
キ 子宮付属器悪性腫瘍手術等	86	82	83

区分3に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2021年	2022年	2023年
ア 上顎骨形成術等	19	25	39
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	27	18	20
ウ バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	1	3	3
エ 母指化手術等	8	3	7
オ 内反足手術等	4	0	0
カ 食道切除再建術等	12	7	15
キ 同種死体腎移植術等	11	6	15

区分4に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2021年	2022年	2023年
胸腔鏡下手術、腹腔鏡下手術	1,346	1,439	1,448

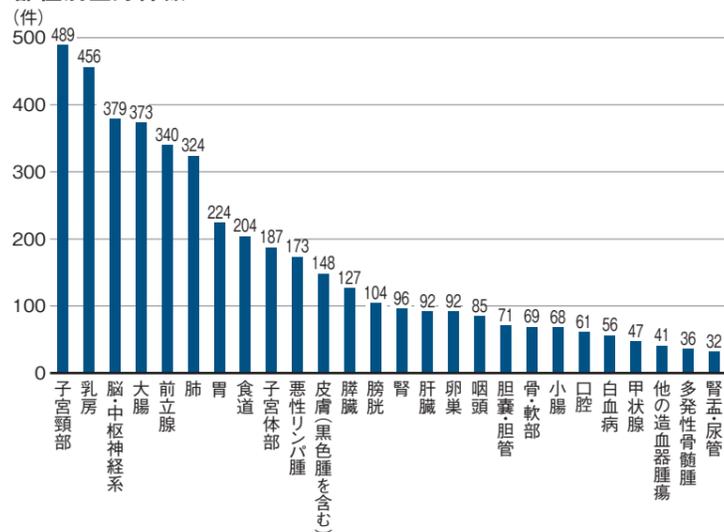
その他の手術

該当する手術一覧	件数(例)		
	2021年	2022年	2023年
5 人工関節置換術	542	494	500
6 乳児外科施設基準対象手術	3	5	4
7 ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術	112	122	112
8 冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心臓を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	215	223	235
9 経皮的冠動脈形成術	18	18	35
急性心筋梗塞に対するもの	1	2	1
不安定狭心症に対するもの	2	2	7
その他のもの	15	14	27
経皮的冠動脈粥腫切除術	0	0	0
経皮的冠動脈ステント留置術	199	165	123
急性心筋梗塞に対するもの	0	5	6
不安定狭心症に対するもの	12	14	18
その他のもの	187	146	99

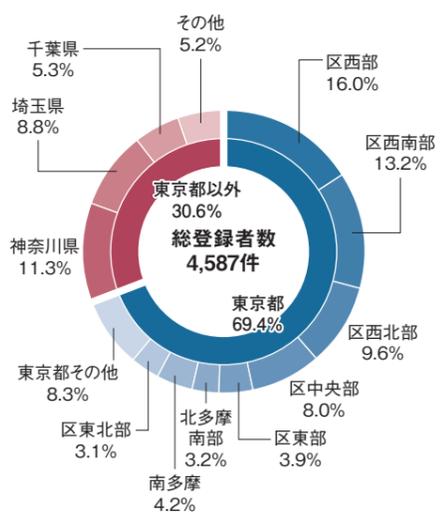
院内がん登録件数

(2023年)

部位別登録件数



地域別がん登録割合



薬剤・輸血関連実績

(2023年度)

内訳	件数等
処方せん枚数(枚)	外来: 415,511、入院: 365,292
入院注射薬調製件数(件)	抗がん剤: 11,554、一般注射薬: 109,659
外来注射薬調製件数(件)	抗がん剤: 22,869、抗体制剤: 11,170、一般注射薬: 13,001
薬剤管理指導件数(件)	31,729
輸血用血液製剤使用数(単位)	59,865
輸血検査件数(件)	97,330

画像・検体・生理機能検査実績

(2023年度)

内訳	件数
単純撮影(健診含む)	172,413
CT	64,543
MRI	31,406
超音波検査(健診含む)	34,733
核医学 PET+SPECT	13,000
IVR(画像下治療)+血管造影	4,068
検体検査(輸血検査含まず)	9,936,570
生理機能検査	113,435

教職員数(人)

(各年度3月1日時点)

内訳	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
臨床系医師(うち研修医)	899(81)	905(88)	871(82)	875(77)	894(79)
歯科医師(うち研修医)	47(16)	39(15)	43(16)	41(15)	40(14)
看護師	994	1,015	1,030	1,051	1,073
薬剤師	103	96	99	106	115
臨床検査技師	147	146	152	155	151
診療放射線技師	82	83	86	85	86
管理栄養士	12	13	13	14	15
栄養士	-	-	-	-	-
視能訓練士	15	14	14	16	18
臨床工学技士	27	29	31	32	34
理学療法士	13	13	13	14	16
作業療法士	4	4	4	4	4
言語聴覚士	6	5	6	6	6
その他技師	57	64	67	68	69
事務職員	235	224	226	223	226
技能員	82	84	71	73	72
教職員合計	2,723	2,734	2,726	2,763	2,819

財務(事業活動収支内訳)

慶應義塾は学校法人会計基準に則って会計処理を行っています。下の表は基準に定められた計算書のうち、当該会計年度の事業活動収入と事業活動支出の内容および収支均衡の状態を明らかにするための事業活動収支計算書の形式で、医学部(信濃町メディアセンターを除く)と大学病院の合計額を表したものです。

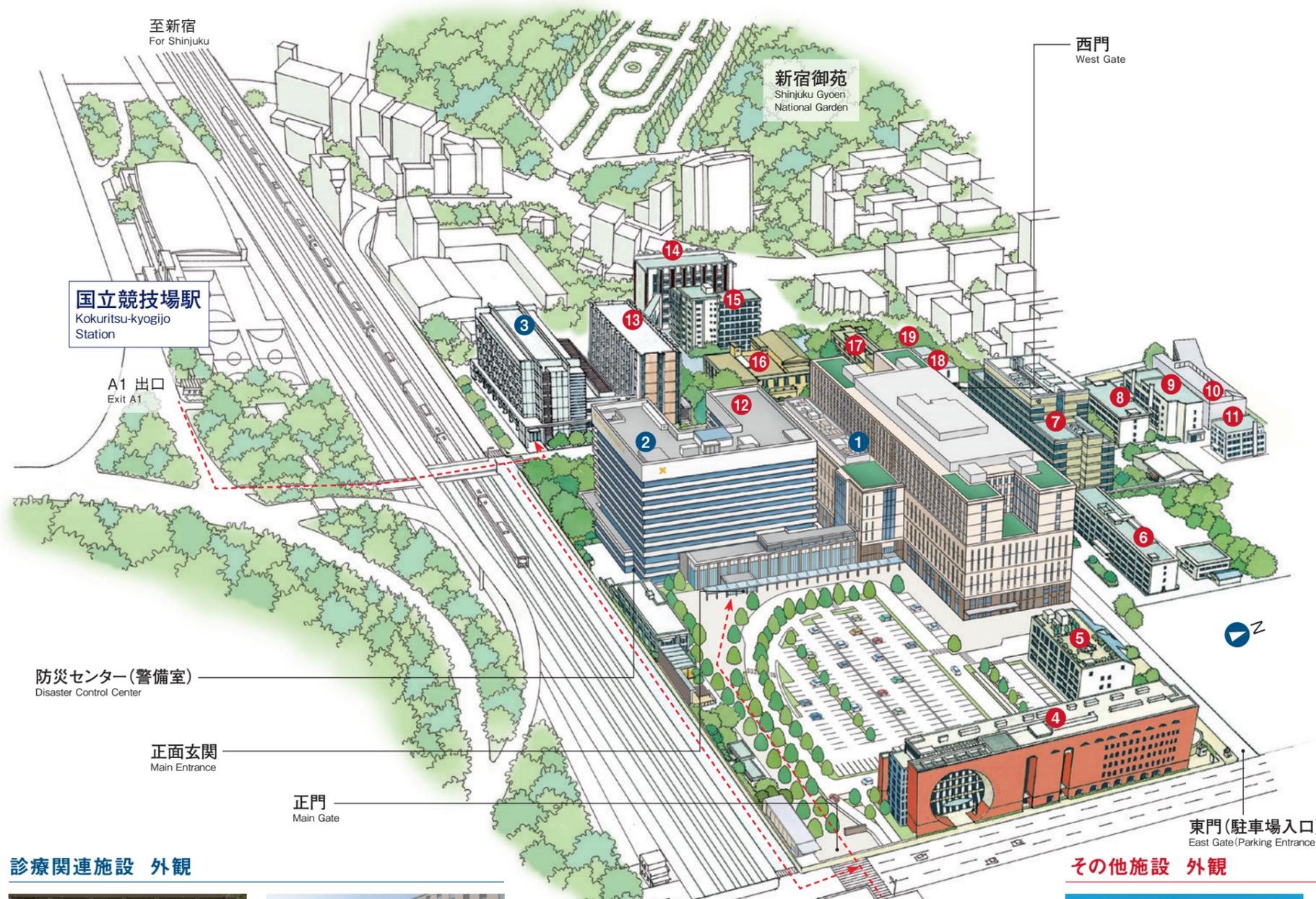
また、大学病院の経費は、文部科学省の通知に従い、医療業務に要する経費は、教育研究経費のうち「医療経費」として処理し、その他の経費については、大学における処理と同様に、教育研究経費と管理経費に区分して処理しています。

(2023年度) (単位:千円)

科目	医学部・大学付属病院	慶應義塾全体
教育活動収支		
事業活動収入の部		
学生生徒等納付金	2,893,243	56,325,062
手数料	99,377	2,052,684
寄付金	1,746,146	6,032,734
経常費等補助金	2,633,400	14,268,327
付随事業収入	9,160,033	18,062,742
医療収入	75,247,934	75,247,934
雑収入	2,411,938	5,234,658
教育活動収入計	94,192,072	177,224,141
事業活動支出の部		
人件費	30,634,210	74,168,010
教育研究経費 (内 医療経費)	63,230,765	97,136,293
管理経費	987,184	5,203,659
徴収不能額等	30,364	54,672
教育活動支出計	94,882,523	176,562,635
教育活動収支差額	△690,451	661,506
教育活動外収支		
事業活動収入の部		
受取利息・配当金	527,721	8,565,782
その他の教育活動外収入	0	359,096
教育活動外収入計	527,721	8,924,878
事業活動支出の部		
借入金等利息	0	15,251
その他の教育活動外支出	0	186,924
教育活動外支出計	0	202,175
教育活動外収支差額	527,721	8,722,702
経常収支差額	△162,731	9,384,208
特別収支		
事業活動収入の部		
資産売却差額	0	0
その他の特別収入	1,354,863	2,648,436
特別収入計	1,354,863	2,648,436
事業活動支出の部		
資産処分差額	49	3,304,517
その他の特別支出	20,860	54,404
特別支出計	20,909	3,358,920
特別収支差額	1,333,954	△710,484
予備費		
基本金組入前当年度収支差額	1,171,224	8,673,724
基本金組入額合計	△703,299	△7,651,039
当年度収支差額	467,925	1,022,685
前年度繰越収支差額	△37,651,271	△164,066,965
翌年度繰越収支差額	0	△163,044,280
(参考)		
事業活動収入計	96,074,656	188,797,454
事業活動支出計	94,903,432	180,123,731

※千円単位で表示する際に千円未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

(2024年8月時点)



受診者用施設

- ① 1号館
Building 1
- ② 2号館
Building 2
- ③ 3号館(南棟)
Building 3(South Wing)

その他施設(医学部・研究関連等)

- ④ 信濃町煉瓦館
Shinanomachi Rengakan
- ⑤ 孝養舎
Koyosha
- ⑥ 東校舎
East Lecture Hall
- ⑦ 総合医科学研究棟
Institute of Integrated Medical Research
- ⑧ 第2校舎
Second Lecture Hall
- ⑨ 新教育研究棟
Education and Research Building

- ⑩ JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター(通称JKiC)
JSR-Keio University Medical and Chemical Innovation Center
- ⑪ 北別館
North Annex
- ⑫ 生協購買部
University Co-op
- ⑬ 3号館(北棟)
Building 3(North Wing)
- ⑭ 臨床研究棟
Clinical Research Building
- ⑮ 紅梅寮
Koubai-ryo (Dormitory)
- ⑯ 北里記念医学図書館(信濃町メディアセンター)
Kitasato Memorial Medical Library (Media Center)
- ⑰ 予防医学校舎
Building for Preventive Medicine & Public Health
- ⑱ 仮設D棟
Temporary Building D
- ⑲ 仮設E棟
Temporary Building E

診療関連施設 外観



正面玄関
Main Entrance



① 1号館
Building 1



② 2号館
Building 2



③ 3号館(南棟)
Building 3(South Wing)

その他施設 外観



⑦ 総合医科学研究棟
Institute of Integrated Medical Research



⑩ JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター(通称JKiC)
JSR-Keio University Medical and Chemical Innovation Center



⑬ 3号館(北棟)
Building 3(North Wing)



⑭ 臨床研究棟
Clinical Research Building



⑯ 北里記念医学図書館(信濃町メディアセンター)
Kitasato Memorial Medical Library (Media Center)



⑰ 予防医学校舎
Building for Preventive Medicine & Public Health

当院では、ご紹介くださる患者さんの待ち時間を短縮するため、予約制を導入しています。以下のお手続きにご協力をお願いいたします。



電話の場合



Webの場合



FAXの場合

受付時間 午前8時30分～午後7時00分(平日、第2・4・5土曜日) ※土曜日は午後5時00分まで

①予約の申込

「外来予約窓口」にお電話ください。
03-3353-1257

「申込フォーム」をご利用ください。
https://krs.bz/keiohosp/m/yoyaku_iryokikan



Webサイト「患者さんの紹介について」から初診外来予約フォームに必要事項を入力してください。

「予約申込書」「診療情報提供書(紹介状)」をFAXで送信ください。
03-5843-6167
「予約申込書」は当院Webサイト(左記URL)からダウンロードできます。

②予約内容を回答します。(予約時間は当院で指定させていただきます)

「予約票」「FAX送付状(紹介状返信用)」を送付いたします。
(15～20分程度かかります)

「予約票」をFAXで送付いたします。
(15～20分程度かかります)

午後7時00分以降に送信いただいた申込は翌日回答となります。
※土曜日は午後5時00分まで。休診前日の受付時間外申込への回答は翌診療日となります。

③診療情報提供書(紹介状)をFAXで送信ください。

03-5843-6167

(送付したFAX送付状をご利用ください)

④患者さんに「予約票」をお渡しください。

【患者さんにご予約当日お持ちいただくもの】

- 予約票
- マイナ保険証や医療証
- 当院の診察券(お持ちの方)
- 画像(CD-Rやフィルム)、検査データ
- 診療情報提供書(紹介状)の原本(必ず事前に送信願います)
- お薬手帳(お持ちの方)

ご不明な点は「外来予約窓口:03-3353-1257」までお問い合わせください。

■ 休診日:日曜日/第1・3土曜日/国民の祝日・休日/年末年始(12月30日～1月4日) ※休診日でも外来診療日とする場合もあります。詳細は病院Webサイトをご確認ください。

慶應義塾大学病院に受診をご希望の患者さんは、以下の手順でご予約をお願いいたします。

1.Web初診予約、または外来予約窓口にお電話をお願いいたします。

URL: https://krs.bz/keiohosp/m/shoshin_yoyaku [Web初診予約フォーム](#)



外来予約窓口: 03-3353-1257
がん専門初診外来予約窓口: 03-5363-3020
受付時間: 午前8時30分～午後4時30分(休診日を除く)
休診日: 日曜、祝日、第1・3土曜日、年末年始(12月30日～1月4日)
※休診日でも外来診療日とする場合もあります。詳細は病院Webサイトをご確認ください。

お電話でお伺いすること

- 他院からの紹介状(診療情報提供書)や検査結果・画像等をお持ちかどうか
 - 診察を希望される「診療科」「医師」「日時」
 - お名前、生年月日、当院の受診歴など
- ご予約の日時をご相談して決定します。

2.紹介状や保険証のコピーをお送りください。

送付先: 〒160-8582
東京都新宿区信濃町35番地
慶應義塾大学病院
外来予約窓口

※個人情報につき「簡易書留」で送付をお願いします。
※予約日3診療日前までに必着をお願いします。
※診察日まで期間が短い場合は、直接病院にお持ちいただくか当日ご持参ください。

3.受診当日、以下のものをお持ちください。

- 予約票
- マイナ保険証や医療証
- 当院の診察券(お持ちの方)
- 画像(CD-Rやフィルム)、検査データ
- 診療情報提供書(紹介状)の原本
- お薬手帳(お持ちの方)

【ご来院時間】
予約時にご確認いただいた時間にご来院ください。
【ご来院場所】
初診・再診受付(2号館1階 1N)にお越しください。

ご不明な点は「外来予約窓口:03-3353-1257」までお問い合わせください。

予防医療センター 人間ドックのご案内

予防医療センターは、次世代の予防医療サービスを提供することで、誰もが健康寿命を延伸し、生涯にわたってウェルネス・ウェルビーイングを実現できる社会の実現を目指しています。

予防医療センターの特徴

- 1.慶應義塾大学病院との連携による質の高い検査
- 2.プライバシーに配慮した快適な施設環境
- 3.高度な機能を搭載した検査機器の設置
- 4.チームサポート制による丁寧なフォローアップ
- 5.各受診者のニーズに合わせてカスタマイズできるパーソナライズド・ドック

パーソナライズド・ドックの内容、選び方など詳しい情報は、予防医療センターのWebサイトをご参照ください。パンフレットをご希望の方はお気軽にお電話でお問い合わせください。

※2023年11月に信濃町から移転しました。

〒106-0041 東京都港区麻布台1丁目3番1号 麻布台ヒルズ森JPタワー5階

URL: <https://cpm.hosp.keio.ac.jp/>

お問い合わせ: 03-6910-3533

受付時間:月曜日～金曜日、第2・4・5土曜日 午前8時30分～午後5時00分

[Webサイトはこちら](#)

